佐野渡怨敵懸橋
亥春新板
鶴喜板
上
春亭仙橋作
五雲亭貞秀画
亥春新板
鶴喜板
中
かたきうちあふむしとり
亥春新板
下
へ13
2483
25

へ13
2483
25

佐野渡恨敵懸橋 上之巻

緑亭仙橋 作

五雲亭貞秀画

天保十年己亥春新梓

全本八冊合巻三冊

鶴屋喜右衛門販

鶏鶏

よく言ども飛鳥をさるれざ。猩々禽獣

たり。鶏鶏飛鳥をさるれざとく妊夫婦を告知して。

主人の仇と報ことあり。猩々禽獣るりとく大象のみ勇

士を誘引毒蛇を射させ小説あり。見みる唐山の書ふ載り。

分ると人として恩義をるぞ。鳥獣も芳りるん。そのあやまち

を尋れば色ふ迷ひ利ふ惑ふ情慾より出るる。誠草とても

るれりと狂言綺語をかたつるねて。婦幼の覧ふ呈すること。も亦

人の口まれ出る。鶏鶏作者の癖をるとと笑ま種の猩々男ど。

なる酔中ふ題まるとあり。

天保十己亥年猛春發行　緑亭仙橋識

近江國犬上郡
河内の豪の按君
八津橋

八津橋が情客
浪人浮菜辰弥が亡魂

飴賣
鸚鵡屋
吉兵衛
人異名して
九官とも
九官ど児
崔太郎
女児
山ほ
崔

江刄多賀大領
氏俊の家臣
路鳥沼
鰍太
周防國大内家の
浪人佐野次郎左エ門一道

ころハ永ろく
ねんぢうのころとよ
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

つぎへつゞく

辰

巳

「つぎは」さてくかのごぜうちへこぶつくりーと
きろくーせんそやんどうきくんをいざうひきそ
かしのいたるひとりてはやろそーふもぎそ
ひまをえうこのこあるろくーむきもおくーれ
るくーこるこゆもーりさおりとそくさそくんをうて
いらせけるくんあんともおめーりられいるこぶうろ
どのいしいにちこーいがんをさうろひめい
きやくあんろうきくんゆもるひらぶを月ぐう
ひくきくんとそいのとうぎたくス
まをうりくおそくいおそーきやく
ともとそくいおろーさ面の
あんくるふをうとあい
なるあくもとくんさとの
のやーめるれいがあん
あれくそーぎーれ今
いやさうければ氏と
大ぶおのうりめい
さくらぶぎうろ
おのがくくーひあす
たるけいせのをこれお
あくスんとくうりけうよ
おろうれるんせめのてうちお
せんとそあんくうせるるを
うけあくべあんたうるうろねもぎりこあ
でをうろくいやつくーぐきやくうろ
ーぐきうられて一よおあうむをうく
「さいぶ得まどせうちいかうろを
ちぐひて氏とのうんきをとうおり
ムるとうりおひくさうーみちあそ
ふんぐーこうき
たるうふあを
ひうく
「まちくへひおーてい
ろうすきうるおひふ
まてい赤んぐうス
▲めんけんたイト
さいあうが
るのたつるう
あーれとも
ぎくを
たーけの
このあれ
どーかお
むをんさ
くく
◆かのけいせいとひよ
くーくーこのあとひて
これふまいます◆

いうりとやくーけでとのうーどきこめく
そきまぐよいきあこらくけり
これがうぎとくんぐこうたぐ
やうまーのうとくうりふけれど
ハうまーいのうもうまるくのてうーと
いうりとあるあうこるこうーと
ゑんぐうるうあせうこ
るうていうろくふろ
さまるぐふこびーい
いうりをやうーげーくぐ
ぐうりをといすくさまあい
くるもべーきうとーうるやう
るるとどもあるとるれば
このこびいやうまりいうい
ロング目ごりいうりいるとそ
たちうちふあいくーのひけり
ハうまーいうくとさてむあーく
さうくとそもまこーいたうこせ
しうくとそうちうこーひーうこん
うんいうるむーきくさまるけまべ
氏くーのざーきくんをぶ
あれぐあうたうふがくとのこまあひ
づけてうちくけーるくとのるく
ぐうるとうるくだのもうるこうける
○さるわどよあめうるきうるこいい
いとさ年うるくだのもうるこうける
つまあるあうるうまるるうるうが
あとせーてうのまうるまでありるぐら
ことうまうるをいうゆーてうるひさのうく
あうるくまんぐ
たんぐまるくるう
たぐまあうくーが中の
町のうるまうるそこのーくふ
まてせうまるのもうふつう
れべのちあいつまの
ともぎりもそのローをを
さとりーくんもうく
いけをくんもうく
くるていうりーきるぐーうそ
うるくきるぐーうめ
くるりくたちうふるきひーぐ
つひふあるひふくんくそ
おぐうるうるもあうくそ
かくーざうくぐそうるも
いぐーてうりまくうる
まくこまひやまて
こあのーひをうりうけ
すてはまるものくひを
そのくていまいのうそ
くるくりとそとうう
うまーく文のまいーい
ーいあうまうをかり
るぐーくきうびくくふ
ぎうるくうひいい
ふんとーふまうぐり
あひつけまるる
ぐれゆりうちのう
さとの「つぎは」

友

雀
火

仙橋作 貞秀画

天保十年己亥初春新彫

傾城田舍源氏

青年廿八編々三十三編を用扱お彩色絵本春仙

柳亭種彦作 歌川國貞画

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人一首稚講釋 山東京山作 八冊 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊 五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡 曲亭馬琴作

視藥霞の引札 各再板 歌川國芳画

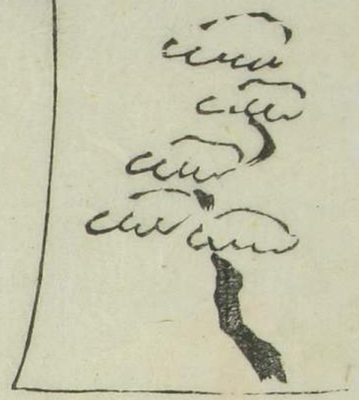
美艶仙女香 四十八銅

黒油美玄香 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

書物 錦繪 團扇 地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

禄亭仙橋作
五雲亭貞秀画
文春拙板
鶴喜板
中

遠
2483
25



字良義濃の計橋 中之巻

仙橋作
貞秀画

亥の春新刊
通油町
仙雀堂梓

九

山

次

辰

熊沖美奈香 筑本氏

あたきうちあふむしとり
春新板
下

貞秀画
仙橋作

佐聖波怨敵
寶橋　下之巻

仙橋作
貞秀画

亥の春發行
通油町
鶴喜板

かさんどう
さけをとり
まきまきの
どんをきれて
ふささり
まあ
山
かさんも
きをとり
とのがきあり

まきもの
つけく
まめくを
まきをぬろ
ゆらしの
ひあと
きろぬと
くうどやで
こどもうよくかさを
たてけりやんすると
ひとのめを
さまるぞ
アレあれをこを
あるどどろ

山
雀

六

緑亭仙橋作

五雲亭貞秀画

美艶仙女香 一包 二十八文

黒油 美玄香

坂本氏製

東都未木園宗匠校輯

俳諧芳叶集 全三冊 開板

俳諧叢山園集 全三冊 追刻

東都未木園宗匠校輯

俳諧 今人附合集 全四冊 新開板

関八州をはじめ陸奥甲斐信濃を始め小田原あるを中昔の歌人城くに名のある人々の附合凡享和元年より文政迄の百数合二百巻を あつめ年々巻々の流行を一瞬又見せるべし 東都未木園宗匠 伊勢道江三の尾法子 西遊 筋江 あるを中昔の歌人を あつめ名のある人々の附合凡享和元年より文政迄の百数合二百巻を あつめ年々巻々の流行を一瞬又見せるべし

凡天保元年より当九年まで の間 海内宗匠方八百十人其外名 ある人々の附合八百巻を ひろめ 当時の流行一瞬又見せるべし

俳諧 今月 四歌仙 全冊 東都未木園宗匠 小園四大人の他東西風の俳諧書時の流行をそく毛不止 校合

田舎源氏文箱 上仕立 たくさん入

俳諧 同撰 七人歳旬集 開板出来

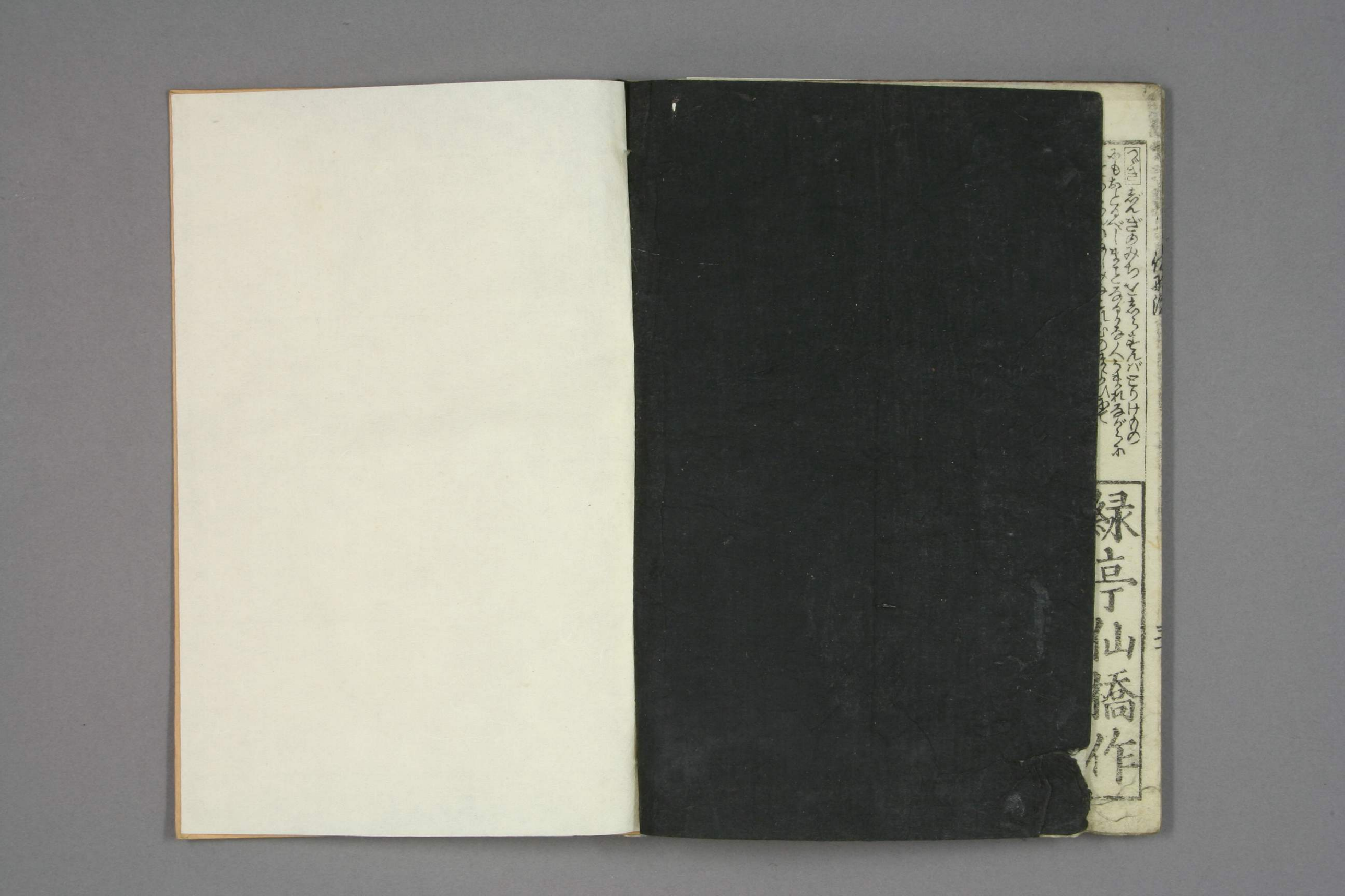
清手遊袋入 小絵さくし 種彦聞書 貞秀画図

昔咄 火焚ぢくア 全三冊 昔咄 さちもんく 全三冊

茶番のいろは 全冊 昔咄 浦島爺 全三冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門


緑亭仙橋作